

山内一豊

生 年・1545年(天文14)～1605年(慶長10)
 享年・61歳
 出身地・尾張黒田
 幼 名・辰之助



安土桃山、戦国時代の武将。織田信長に仕え、その後羽柴秀吉に仕える。小田原の役の後、遠州掛川5万石。関ヶ原の合戦では徳川家康につき、土佐20万石を得る。妻の内助の功により駿馬を買った話は有名。

《略年表》

- 1545年 尾張黒田(現在の一宮市木曾川町黒田)に誕生
- 1557年 黒田城が夜襲にあい長兄・十郎が討死
- 1559年 織田信長が岩倉城を落とし、尾張の大半を統一豊の父・盛豊。織田信賢方であって戦死
- 1560年 元服し伊右衛門一豊と名乗る
- 1573年 信長軍として越前刀根山の朝倉追撃戦に加わる
この時、敵将からの矢で右頬から貫通する大怪我をする
近江唐園(現在の滋賀県虎姫町)に400石を与えられる
- 1575年 秀吉に従い長篠の戦いに参戦
- 1581年 馬揃えが開催され、この時あの伝説が生まれた
- 1582年 秀吉に従い山崎の戦いに参戦
- 1583年 秀吉に従い亀山城戦、賤ヶ岳戦に参戦
- 1584年 秀吉に従い小牧長久手の戦いに参戦
- 1585年 秀吉に従い紀州征伐に参戦
秀吉に従い越中戦に参戦
近江長浜に2万石を与えられる
- 1590年 小田原城攻めに参戦
- 1592年 山内忠義(二代藩主)生まれる
- 1600年 関ヶ原の合戦
小山軍議で掛川城明け渡しを建議する
土佐一國の領主となる
- 1601年 甲府に上陸、浦戸城へ入城する
- 1605年 養子の忠義と家康養女・阿飯との婚約が成立
9月20日、61歳で没する
真如寺山(筆山)に葬られる

黒田城跡周辺地図



法蓮寺



法蓮寺本堂北には、一豊の父・山内但馬守盛豊と兄・十郎の墓がある。兄は弘治3年(1557)に黒田城で夜襲にあい死亡。父は永禄2年(1559)に岩倉城落城時に死亡したとされる。また、法蓮寺境内には「山内一豊出生地」の碑がある。
 法蓮寺の妙見堂は、日本三大妙見の一つに数えられる妙見菩薩で有名である。法華経の校本で日相本として世に知られる日相上人は、当地の生まれてこの寺の十三代の住職である。



- 所 一宮市木曾川町黒田字勤治西80
- 料 無料
- 休 なし
- 交 JR東海道本線「木曾川駅」より 徒歩8分、名鉄名古屋本線「新木曾川駅」より徒歩11分
- 車 東海北陸自動車道一宮木曾川ICより10分 20台

黒田城跡

(一宮市指定史跡)



山内一豊の父・盛豊は、岩倉城を本拠とする岩倉織田氏の家老を務め、支城の黒田城を預かっていた。天文14年(1545)に、一豊はこの地で生まれたとされ、弘治3年(1557)の敵襲を受けるまで、黒田を中心に暮らしたことであろう。山内氏の退去後は、織田広良が入城し、次いで和田氏、織田信雄配下の澤井雄重が城主を務めた。信雄失脚後は、秀吉家臣の柳直盛が入り、慶長5年(1600)の転封まで使用された。現在、市街化が進み遺構は残らないが、江戸時代の絵図によれば、城は野府川を北の備えとし、東には後の岐阜街道を擁していた。天守に相当する櫓もあつたと思われる。この小公園は平成10年に整備され、冠木門(模擬)の右手奥には一豊顕彰会寄贈の一豊立志像がある。



- 所 一宮市木曾川町黒田字古城
- 料 無料
- 休 なし
- 交 JR東海道本線「木曾川駅」より徒歩5分、名鉄名古屋本線「新木曾川駅」より徒歩10分
- 車 東海北陸自動車道一宮木曾川ICより10分

木曾川資料館



山内一豊を中心に、浅野長政、兼松正吉など一宮市ゆかりの戦国武将、史跡などを紹介している。建物は、大正13年(1924)に竣工した旧木曾川町会議事堂で貴重な歴史的建造物である。

- 所 一宮市木曾川町黒田字宝光寺18-1
- 料 無料
- 休 月曜日
- 開 午前9時30分～午後5時
- 交 名鉄名古屋本線「新木曾川駅」より徒歩3分、JR東海道本線「木曾川駅」より徒歩15分
- 車 東海北陸自動車道一宮木曾川ICより8分

*周辺には駐車場がありません。公共交通機関をご利用下さい。